

8三月八刊夕

常磐每日新聞

定価 一部全取一ヶ月 郵費五圓
廣告料五號十二字一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日印刷株式会社



創作

かんざし

木津茂太郎

(4)

それから、顔をあげて彼の後姿を見た。やさしい眼であつた。

袂から出したのは、かんざしであつた。房のついてある色彩の綺麗な、丁度半玉のさす様なものだつた。

つたゑが十八の年初めて髪を結つてさしたもので、東京の伯母さんを買つて貰つたのであつた。

「ちよつと」 つたゑは彼を呼んだ。彼はつたゑの前へ戻つて来た。

「つまらない物だわ、これかたみよ」

「かたみよ……」

つたゑは彼の手にかんざしを渡して、さびしげに笑つた。その顔を真直に見乍ら彼はいぢらしさで胸が一杯になつて、

「かたみだなんて……。僕は何かもあなたにやる物はないな、何か……」

「何んにもいらぬわい。此のかんざしはあたしの一番可愛いものなのよ」

「僕は時計をやらう……」
さう云つて彼は、机の引出からクロオムの腕時計を

出して来て、つたゑにやらうとした。「いらぬわい、いらぬわい」と云つてゐたが、つたゑの手の中へ無理矢理に握らした。

「外へ行かない？」

彼はつたゑの云ふまゝに部屋を出た。彼がかんざしを袂へ入れようとする時、時さんが先に立つて階段を上つて来た、四人は神社の方へ出て行つた。

その日、彼は裏のつたゑの家へ寄つて見ると、時さんが鶏に餌をやつてゐた何んだか家の中がいつもと違つて、しーんとしてゐる様に思はれた。

「時さん、いゝお天気だね」

「さうだね、櫻は大分咲きやしたらうな」

「瀧のしだけ櫻はいゝねえ……時さん」

ノート

熨斗は祝事には長熨斗凶事の時には使はない、又普通の賜物でも生魚鳥類にはつけない

「なんだね」

「つたちゃん、昨日東京へ行つたよ。津川さんや瀬山さんによるしく言つて行つたよ」

「さうですか」

平高野 町島澤 前易定 所象
八月四日壬寅七赤赤口危
【一】遠方親戚より病報を得る事あれば萬事に注意
【二】黒火難水難を注意して萬事忍耐か吉【三】碧營業や事務多忙の吉なるも水難火災に注意【四】綠營業取引に損害を蒙る事あれば手足にも怪せぬ様【五】黄金談縁談の件は皆應じ長男長女に喜悅のある吉【六】白金談縁談取引萬事進んで大利を得る日東西と成立は凶【七】赤如何にせんと志案に餘るの難題の起る事あれば謙遜を守られ【八】如何に奔走するも望事の得ざる日なれば目上と不和を起さぬ様【九】紫人に煽動を受大損害を來す事あれば現状維持吉

もう行つたのか、彼はさう思つてさびしい氣がした。彼は不意に思ひ立つたやうに急いで宿へ戻つた。彼は手荷物をまとめて町へ歸らうとした。

町までの一里餘りは自動車も通らなかつた。その細い山路を彼はしよんぼりと物忘れした様な姿で辿つて

【朝】みそ汁ーねぎ
【晝】吉野煮ーえび たうが
【晩】煮着ー鯉ほねきり

さうなら山よ、谷よ、宿よ。

彼はとあるわかれ驛に止つて、小さいトランクからかんざしを取出した。そして立つたまゝ、彼はかんざしを穴の明く程見つめてゐた。

「つたちゃん、忘れないうよ」
彼はかう云つた。歩き出した時には片手にしつかりと、かんざしを握つてゐたかんざしの房は彼の歩く度にゆれた。

木村外科科專門醫院

花柳科 外科 專門科
平高野 町島澤 前易定 所象
平南町 電話 三〇九

難波 陸

内科一般
醫學博士
平町大町新川端 電話五〇二

志のぶ錠

新發賣
男女安全豫防藥
阿康藥舖
平古鍛冶町(電話四四番)

耳鼻咽喉科專門

氣管食道科
平南町(電話一七〇番)
大和田醫院

旭粉末石鹼

旭化學工業所
村山 三郎
平町白銀町五

福幸ノ主株

常磐モリス商工助成株式會社
福島縣平町字十五丁目二十六番地
電話 四六番
振替東京六二九五一番

阿部石炭商店

玉炭 石炭
平驛前
電話 三七番

都市計画法を

小名濱に實施する

縣下の他町村に先んじ

準備に着手

出荷協定

小川養蠶で

石城郡小名濱町では縣下町村にトップを切つて都市計画法を實施する事となり町有志間では實現速進の爲め小野晋平氏を會長として期成同盟會を組織し來る五日小學校で發會式を舉げ諸般の準備を行ふと

石城郡小川村養蠶實行組合では來る六日午前九時より同村役場に於いて役員會を開き初秋蠶の共同出荷を協定すると

時間に遅れるな

日歸り海濱學校の生徒

既報明日より二日間豊間村薄磯海岸に於て開催される平第二小學校尋四以上希望兒童の日歸り海濱學校は明朝片倉製糸工場に集合五時半十餘臺の自動車に分乗出發するが豫定は海岸遊歩、

日光浴、海水浴、陸上競技磯遊び、燈臺見學等にて申込兒童は五百二十餘名因に參加兒童は食糧水筒手拭水着パンツ藥品等を用意し時間に遅れぬ様注意され度いと

移動講習第一日

組長や班長を定めて出發

既報本日より三泊四日間の豫定にて豊間、新舞子、四倉の各海岸に於て開催される石城聯合中青年移動講習會は本日午前八時會員警中校庭に集合、小檜山團長の挨拶に次いで西山團長の注意あり小檜山團長を始め

西山、大河原兩團長、松本、高木、大塚、近藤各幹事引卒の下に三組六班に分れ午前十時本日の目的地豊間海岸を目指して出發したが各組長及び班長は左の如くである (組長第一高木上遠野小)

保木常文 第三玉川村小
泉四郎 第四好間第二戸
納錦平 第五箕輪第二大
和田重正 第六四倉町外
山孝一

小麥改善
農事の傳習

石城郡神谷農事試験分場では來る六日午前九時より農事特別傳習會を開き會津分場高根技手の小麥作の改善と綠背栽培法に就いての講演がある

一萬四千人以上の 延人員を出勤して

豊間漁港の工程進捗

既報石城郡豊間村の漁港改修工事は工費七萬六千五百圓を以つて昨年度より着手し目下船溜工事及び防波堤延長工事を繼續中であるが着手以來既に人夫一萬四千二人の延人員を使用し全工程の三分の一を終へたと

常設館たより

平館 松竹時代劇市川右

平町物價

| | | |
|----|-------|-------|
| 白米 | 一等 | 一六五 |
| | 二等 | 一六〇 |
| | 三等 | 一五五 |
| 白麥 | 同 | 八五 |
| 平麥 | 同 | 一二五 |
| 味噌 | 一貫 | 五〇〇 |
| 醤油 | 一升 | 四〇〇 |
| 清酒 | 同 | 一、〇〇〇 |
| 木炭 | 樽九一貫 | 二二〇 |
| | 樽九二貫 | 二二〇 |
| | 樽九三貫 | 二二〇 |
| | 樽九四貫 | 二二〇 |
| | 樽九五貫 | 二二〇 |
| | 樽九六貫 | 二二〇 |
| | 樽九七貫 | 二二〇 |
| | 樽九八貫 | 二二〇 |
| | 樽九九貫 | 二二〇 |
| | 樽一〇〇貫 | 二二〇 |

演「街の青空」菊太郎プロ
尾上菊太郎、月宮乙女主
演「若様大學」

海邊の便り
平第一臨海學校通信
(第一信一八・一)

眠らうとしても眠れない、あのつんとくる磯の香、はてしない大海原、美しい魚の群、色々の有様が走馬燈の様に浮んで目は益々やえて來る、一週間も二週間も前から待ちに待つて居たのに、明日は行けるのだ……その時遠くからかすかに氣笛の音が響き上り列車は静かに消えて行つた

今日の天候を氣遣ひ乍ら外に出て見ると紺色の空はよく晴れにこやかな太陽は強い光をはなつてゐる。すがすがしい朝である、朝の用事もすつかり終り喜び勇んで停車場へ急ぐ父さん母さん姉さんに送られ笑を満面にたゞよはして待つてゐるお早うお早うが言ひかほされる、その中先生方々もお集りになり何時か荷物はトラクに山と積まれ吾々は車中の人となつた、何時も見馴れてゐるあたりの景色ではあるが走る汽車の窓よりの眺は又格別である、然し喜々として騒ぐその中から自分達の幸福がしみみしくと身にしみ父母への感謝で喉はあつくなつて來る様である。

日間の宿舎は舊校舍北側五教室です、八十三名の平の健兒は兵隊さんの様にかひがひしく各班ごとに別れ一生懸命お掃除です、たちまち見違はる様に奇麗な宿舎となりました。

×
フンドシのかけ方には苦心しました、グズグズにかけると、前の方にヒラヒラとさげる人、いよゝゝわからなくなり先生や先輩の人に教へられる人、然し練習の結果なんとかしめられる様になりました、松本先生から色々水泳上の注意をねんごろに教へられ、平第一臨海學校の旗を先頭に堂々と水泳場に急ぎました、眞赤な帽子、眞赤なフンドシを

した吾々八十三名の健兒は見事右往左往に人々の間を縫つて泳でゐる、やがて一同は無事元氣そのもの、様に歸舎、温い銭湯で鹽からひ身體を洗い、おいしいおやつを頂戴しそれ／＼忘れ得ぬ父母へさも誇らしげに手紙を書いてゐる。

×
お父さん、お母さん……それから兄さん、姉さん……決して御心配なく僕等は先生の教へを何よりもよく守ります、お洗濯からお茶碗洗は勿論大切な共同生活に馴れ天晴れ海國男子としてはがたくない身體を養成し皆々様をアツ！と驚かしてやります、明日も天氣の様です、初日の便りはこれでやめます。グットナイト

暑中御伺

磐城共濟病院

院長 石山謙郎
電話六四一
自宅電話一二四番

咽喉科 増田醫院

平町 南町
電話四八二番

平看護婦 清野清子

平町 南町
電話三〇七番

旭屋衣裳店

平町 三丁目
電話四二五番

平町會議員研究會一同

暑さの最中とは云ひ

政民譲らぬ選挙策戦

愈よ言論戦の火蓋を切る

今回の選挙戦は暑さの真最中殊に任期僅かに餘す處二年の補欠選挙の事として一般に氣乗り薄の態であるが政民兩派は着々戦鬪の準備を進め若松派は先づ明日四日平窪、飯野の兩村に言論戦の火蓋を切り赤坂派又本日二丁目子自動車部裏に事務所開きを爲し五日から郡内片押に言論戦の烽火を擧ぐる等互に虚々實々の作戦計劃を進める模様であるから期日の切迫に連日相當濃厚な選挙氣分を描き出すものと見られて居る

懇ろの女

上京に落膽 無斷で家出

石城郡内郷村大字宮宇町田居住理髮業福田實方徒弟大久保彌之助(九)は隣家の大工職大森兼吉次女アキ(二)と懇ろとなつたがアキは東京の叔母方に家事手傳ひに行つて仕舞つたので同人は落膽し去る卅日午後九時頃雇主に無斷で飛出した爲め本日平署に捜査方を願ひ出した

自動車隊が

交通安全の宣傳

平警察署では来る五六七の三日間全縣下に於いて催される交通安全デーには自動車協會平支部と協力して自動車隊を組織しピラ三萬枚を撒布する外主要箇所にはポスターを掲げ此の宣傳に馬力をかけると

雄圖空し

今晚八時に

警中選手歸る

昨日の東北中等學校野球大会

選手慰勞

マルトモにて

別項盛岡遠征警中選手の歸着を迎へ直にマルトモホールに於て慰勞會を催す由にて一般の出席を歓迎すると會費一圓

遊戯講習終る

郡小學校女教員の遊戯講習會は去る一日より本日迄平第二小學校講堂に於て東京子供研究會今泉薫氏指導の下に開催され出席者は毎日百五十名宛にて盛會であつた

出刃庖丁で

相手の顔を斬る

半月前の傷害沙汰發覺

石城郡赤井村大字高萩字山ノ入八五居住坑夫宮城重太郎(三)は去月十六日隣家の五十嵐留五郎方で泥酔居合した同僚小堀藤市(三)と些細の事から口論となり臺所より出刃庖丁を取出して小堀の顔面に斬り付け全治四週間を要する傷害を負した事此程發覺目下平署で取調中

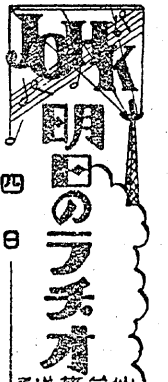
子供の弄火から

一戸烏有に歸す

石城郡貝泊村字戸木田農蛭田儀藏方より去る一日午前九時頃發火同家全焼して十時鎮火した原は子供の弄火であると

清田検事着任

既報 米澤區裁判所検事より平區裁判所上席検事に榮起赴任し來る清田一郎氏に於て八



明日の天気 氣味 風曇一時晴驟雨

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間 獨唱 神谷眞佐子 ピアノ 伴奏 瀬戸敏子
後六、二五 講演 後七、三〇 講演「新徒弟 制度の再興と少年職業指導」遊佐敏彦

後八、〇〇 獨唱 小原威子 ピアノ 伴奏 瀬戸敏子
後八、二五 独唱「追分節」 唄中村廣聲尺八廣瀬靜輝
後八、四五 連續ラヂオドラマ 友田恭助外大勢
後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告

明日の部

前六、三〇 夏期佛語講座
前六、四五 井上源次郎
前七、三〇 夏期英語講座
前八、〇〇 野球試合實況(東日大主催) 第七回都市對抗野球大會(第二日) 明治神宮外苑球場より中繼
前八、三〇 家庭講座
後八、〇〇 吹奏樂(大阪市音楽隊) 指揮 林巨
後九、〇〇 夏期講習 家庭講座 長唄のお稽古

禁酒貯金

内郷で會合

石城郡内郷村國分久齊藤齊の兩氏は今回内郷禁酒貯金の創立準備中であつたが入會者多數に達し近く同村淺野會館に於いて創立總會を開くと

取立金横領

鎌田で豪遊

昨夜平署に捕る

平町南町二〇野内辰雄方履人小笠原明(三)は去月中旬より命じられた取立金九千圓餘を横領行術を働いたので雇主の届出で依り平署で捜査中昨夜鎌田遊廓住吉樓にて豪遊中を捕へた

求人

求職も

共に増加

平職業紹介所で去月中に取

(四) 杆家彌七

後六、〇〇 子供の時間 お話「夏は身體に大切な時」小田美穂
後六、二五 東北々海道産業講座「交雜に依る稻の新品種造成」東北帝大教授理學博士 山口彌七
後七、三〇 趣味講演の夕一「人を斬る刀の話」櫻井忠温 二(探偵小説に就て) 濱尾四郎 長谷川伸 朝倉文雄
後九、〇〇 映畫劇「磧の露」嵐寛次郎 嵐徳三郎 淡路千夜子 外

回職を求めめる方

△女中 二十五才 尋四修 給料面談(平窪村某)
△農夫 二十八才 中二修 給料面談(熊本縣某)
△土木現場監督 三十七才 高卒 給料面談(平町某)
△雜役 二十四才 高卒 給料面談(飯野村某)

平町人事

回出生
△播種小路一四 草野留直 氏四男拓二
回死亡
△大町三〇 忠吉氏長女佐藤タケ子(二一)

科人婦科外 院醫坂井

町田町平 番九五五話電

銘劍秘双録

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫
第六回 血に飢ゆる村正

太「お客様どうしなすつた昨夜は眠られましたか」と
太惣次が入つて来て見ると村正が苦しんでゐるから吃驚して

太「どうしなすつた客人腹でも痛むかね」
村「イヤ御主人昨日は種々御世話様になりましたが、實は今朝急に足が痛み出して苦痛勘へがたい位で」

太「ヤア夫はいかねえ、旅馴れねえ者が難儀な道を歩くと能くそういふ目に遭ふもんだ、ナニニ太した事はねえ少し私の處で療治をしてゐたら癒つてしまふから心配しなさらねえ方が宜い村「何とも申譯がございません、此の上御厄介になるといふのは心苦しい事です」太「心苦しいつたつて病ぢやア仕方がねえ、で四五日泊つてゐなさが宜い、ドレ／＼見せなせえどんな風になつたかア、それア何だ底豆を踏み出したんだ煙草の吹殻を粘飯で練つて紙に延ばして附けるが宜い、私は之から仕事に行くだが婆さまに言ひ付けて置くから悠くり寝なさがいい」

村「有難う存じます」
太惣次の女房が膏藥をこしらへて貼つて呉れ、それからふくらツ脛に熱を持つてゐるから冷い清水で手拭を



ものでもあるか、腹工合が悪くなつて熱を發した。太惣次も心配をして之アいけない素人療治では難かしいといふので村の内に、醫者といふのも嗚呼がましいが筒位の醫者がゐるので、夫を頼んで呉れた一時はどつと重くなつたが、宜い鹽梅に峠を越すと日一日とうす紙を外すように快方に向ひ卅十日ばかりで漸く全快をした

絞つて巻いて呉れえと好い心持だ。親切に世話をしてくれて他人とは思へない位翌日になると茂作に源兵衛が見舞に来て色々冗談なとを云つて慰めて呉れる。四正日経つと、成程足の方はよくなつたが長旅をしてゐた處、急に落着いて

とは大切だから
少しも嫌な顔をしなさいで夫婦が家族のやうに扱つて呉れるから村正も氣嫌をせず厄介になつてゐられる。雨でも降ると大勢村の若い者が遊びに来て、村正に鎌倉の話などを尋ねる。村正は正宗の處にゐて書物も多く讀んでゐるから、尋ねられる事は大概答へが出来るので豪い人だと自然皆から敬はれるやうな鹽梅で、此の頃はブラ／＼村内を歩いて足ならしをしてゐる。スルと或る日の事、名主の處に急寄合があるといふので太惣次が出掛けて行つた、之は何だといふと、狝々の年を経たのが山中に住んでゐて、豫て作物を荒したり何かしたが、此の頃は人間に害を加へるやうになつたので捨置けないから御領主に退治して頂きたいと願ひ出ると、相憎御領主が都に上つてゐてお留守だ、夫が爲に御領主様のお歸りになるまで待てと仰しやるのだがどうも打捨て置いた日には此の先どんな真似をされるか知れないから、村の者の手で退治して終はうといふので、其の相談だ、處が元氣の宜い者も大勢ゐるが、扱私がりませうといふ者が多い、そこで名主の發案でくちをこしらへ、其のくちに當つた物が狝々退治をする事になりました。

せん、ふとした事から飛んだ御厄介になりました此の御恩は生涯忘れませぬ」太「マア、宜かつた。一時は私も婆さんめえらく心配をしたが矢張若い者は豪儀だ、峠を越すと快くなるのが早い、マア當分家に遊んでゐなさが宜い、病上

算で覺語をして引いてお呉れ、そこで皆なビク／＼者で其のくちを引いたが、白紙を引いた者はホツとして胸を張る、處が大惣次がくちを引くと、之はどうだ丸い印が附いてゐる。
太「ヤッ當りました、私に當りました」
と云つたが大惣次眞青になつて終つた。

院醫科齒村中

七町冶鍛町平

御愛乗下ろい
シボレーに！
そは先驅者なり

看護婦急派
の求めに應
じます

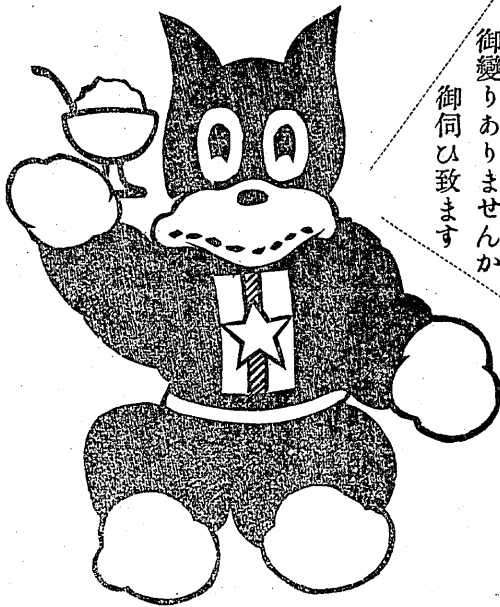
平町南町
平看護婦會
電話三〇番

魚清新案の獨特な尖端的!!!

せ印 朗アイス

その風味!!!香!!!フレッシュな舌ざはり
容器もモダンで涼味満喫!!!

暑さ殿しい折柄皆様には
御變りありませんか
御伺ひ致します



平二番茶屋裏通り 魚清食堂部

出前持至急入用

旭硝子株式會社製品
赤菱印
板ガラス

製造販賣
硝子食器
其他各種

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)
市榮町(電話五九七番)